



薬小っ子スタンダード
当たり前のことを
当たり前に行える子に

薬師寺小だより

平成29年9月
下野市立
薬師寺小学校長
鈴木 一恵

 挨拶・返事
言葉づかい
やさしく

 テレビやゲームの
時間を決める
かしこく

 早寝・早起き
朝ごはん
たくましく



いよいよ前期後半スタート!

待っていました!
子供たちの元気な姿!

42日間の長い夏休みが終わり、元気な子供たちの姿が学校に戻ってきました。ニュースでは、山や水の事故、交通事故等の情報を数多く耳にしましたが、本校では、無事故で大きな病気や怪我もなく、全員無事に夏休みを過ごすことができました。御家庭のご協力、プール監視当番の皆様の御尽力、地域の皆様の温かい見守りのお陰と心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

一段とたくましくなって登校してきた姿から、子供達は十分に「**元気活用ミッション4**」を心がけて過ごしていたことが分かりました。

全員に100点満点をあげたいと思います!

- ミッション1 **元気を** **く**ること
早寝早起き朝ご飯、外遊び
- ミッション2 **元気を** **づ**けること
交通事故や水の事故などに遭わない
- ミッション3 **元気を** **か**うこと
「○○をがんばる」「□□ができるようになる」の目標を決める
- ミッション4 **元気を** **た**えること
家族や地域の人への挨拶、お手伝い、地域の行事に参加

4匹のタイを上手に泳がせて 9月からも元気を活用できる子に

愛されたい **褒められたい** 
認められたい **人の役に立ちたい**

夏休み終了と同時に運動会の練習がスタートしました。生活のペースを取り戻す間もなく練習開始ですから例年以上に大変です。御家庭でも「今日も一日頑張つて」と願い、励ましながら学校へ送り出して下さっていることと思います。

学校でも教職員一丸となって子供たちに熱いエールを送りながら練習を進めています。その時私たちは、子供の心に泳ぐ4匹のタイを思い描きながら、一人一人を肯定的に見つめ、よさを引き出せるよう指導しています。自分自身が認められていると実感できることは、自信や勇気につながり、大変なことでも頑張ってみようとする元気が湧くものです。



運動会の達成感がこれからの学習や運動、学校祭や持久走大会への元気の素になることを願っています。

夏休みも頑張りました 子供たちも先生たちも

今年の学習支援教室は夏休み開始時と終了時に分けて5日間(1日2コマ)開講しました。自主学習形式で夏休みの課題を計画的に進めることや学習の習熟を目指して子供たちの学習を支援しました。



連日、多くの子供たちが利用しました。自分で決めた教材を持参し、目当てに向かって熱心に学習に取り組んでいる姿にとても感心しました。指導にあたった教員も分からないところを教えたり、学習の相談にのったりと指導に熱が入りました。

教員も夏休みを利用してたくさん研修を行いました。例えば、今後、時数が増える「外国語活動」の研修では、下野市のALT5名と一緒に、英語を用いたゲームを考えたり、英語でのコミュニケーションの仕方を体験したりしました。子供たちが楽しく英語を学べるようという心が一つになり、いろいろなアイデアが出ました。



また、学力向上に向けて県教委から指導を受けながら児童の実態に沿った指導の研修も行いました。さらに、南河内中学校区の教職員全員で義務教育学校設立に向けた研修会を開催し、子供たちの将来のために熱心に議論し合いました。

PTA活動も充実! 素晴らしい薬小のPTAパワー!

1年生に「夏休みは何が楽しかったですか?」と尋ねたところ、何人もの子が「森永に行ったこと」と答えていました。2日に分けて行われた森永製菓への親子研修は、120名もの参加があり大変好評でした。キャリア教育にもつながる充実した工場見学となりました、大変お疲れ様でした。

プール監視も暑い中、大変お世話になりました。お陰様で無事にプールを実施することができました。8月26日の奉仕活動には、夏休み最後の休日にもかかわらず御参加頂きありがとうございました。窓拭きやトイレ掃除、テント張り等を行っていただき本当に助かりました。一緒に参加してくれた子供たちの愛校心や奉仕の心に大変感心しました。

9月1日にはPTA役員会が実施され、運動会の打ち合わせが行われました。駐車場や賞品、会場関係、PTA種目等、お世話になります。お願いします。

運動会スローガン!

一心同体 みんなが主役の運動会

9月8日(金)、まだ練習を開始して1週間だというのに、校庭ではダンスの鳴子や掛け声、大旗の風を切る音が力強く鳴り響いていました。既に練習の段階からひたむきに練習する子供たちの姿に感動を覚えます。各種競技も見どころ満載です。赤組は勝利が続いており「今年勝つと4連勝」と飯野妃香団長を中心に意欲満々。しかし、白組も「今年こそは絶対に優勝旗を手にする」と蓬田誠優団長を中心に気合い十分です。どちらも団員の気持ちは一つ、「一心同体」となって熱戦が繰り広げられることでしょう。

ある子が「運動会晴れるといいね」とてるてる坊主を窓辺にかけていました。今年は絶対に晴れて欲しいですね。一人一人が主役となって、秋空の下で光り輝いてくれることを心から願っています。



本校のチーム分けはなかよし班で行われています。1～12班が白組、13～24班が赤組です。現在の本校の児童の比率は、1～3年生は約6割、4～6年生は約4割ですので、リーダーシップをとる上学年児童は少ない人数で係の仕事やなかよし種目等の統率を行っています。よく頑張っていて本当に感心します。

大きな学校行事を通してリーダー性を育てたいと思う反面、高学年児童の負担増や安全面を考慮し、特に体育的行事を行う際には細心の注意を払って計画を立てています。保護者の皆様におかれましても、運動会が無事に行われますよう応援と共に健康・安全面でも見守っていただければ幸いです。

このような状況から、ここ数年は学校祭や持久走大会実施においても、PTA各専門部の皆様にはお骨折りをお掛けすることが増えるのではないかと心苦しく思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

家庭の日絵日記から～第3日曜日は家庭の日～

「森ながこうじょう」

わたしは森ながこうじょうにいきました。キャラメルや、エンゼルパイやチョコボールをつくっていました。つくっているところにはいらなくても、いいにおいがしました。いいにおいがして、たべたくなりました。

「わたしのすきな時間」

わたしは、おかあさんとおふろで今日のできごとを話す時間が大好きです。にが手な日きのしゅくだいはわたしの気持ちを聞きだしてくれたり、ともだちとけんかをした時は、どうすればよかったかをいっしょに考えてくれます。

「ベニバナたいけん」

わたしは、7月22日におとうさんとベニバナつみをしました。その日は、すごく外があつかったです。ベニバナははじめは黄色だったけど、何日かたつと赤色になるそうです。27日もおとうさんといきました。ベニバナぞめをしました。こうちゃぞめもしました。ベニバナは、クエンさんが入ると花びらの色がだんだんうすくなっていきます。水の色が赤色になります。

「命は時間」7/20の校長講話から

夏休みに入る前に今日は「命は時間」というお話をします。

これは7月18日に105才でお亡くなりになられた日野原重明さんというとても立派なお医者様が日本中の子ども達に伝えたかったというお話です。ぜひ薬師寺小のみんなにも知って欲しいなあと考えたので、校長先生からお話しします。図書室で「日野原先生の書かれた『いのちの授業』(ユーリーグ発行)」という本を手にした人もいます。この本の中に書かれている日野原先生のメッセージです。

皆さんは、命は、いったいどのようなものだと思いますか。命は心臓にあると思う人も多いでしょう。でも、心臓はいわばポンプです。心臓は私たちが吸った息の中の酸素や、腸から吸収した栄養素を、血液と一緒に頭や手足、体全体に、ひとときも休むことなく送り続けています。だから、私たちの体は動くことができるのです。命を動かす役割を果たすのが心臓、と言うわけで、その心臓は命そのものとは言えないのです。

では、命は見えるのでしょうか。

風が吹いているとき風を見ることはできませんね。でも枝や葉が揺れていれば、風が吹いていることが分かります。実は命も風と同じく見ることはできませんが、風と木の関係のように、見えなくても教えてくれることがあります。

それは私たちの持っている時間です。時間の使い方自分の命が分かるのです。

つまり、「命は時間」、命は自分の持っている時間なのです。

なるほど、「命は寿命なんだ、時間なんだ」と皆さんは思うかも知れません。確かにその通りですが、小学校6年生までの12年間という「命の時間」を寝てばかり過ごすのと、いろいろなことに挑戦したり、いろいろな人に会ったりするのは、全く違いますよね。

例えば、1時間、自由に使える時間があると考えてみてください。ぼんやり過ごしてもいいし、友だちと遊ぶために使ってもいい、お母さんのお手伝いをして部屋の掃除をしてもいいし、公園のごみ拾いをするなど、同じ1時間でも使い方はいろいろあります。

自分の持ち時間の使い方はいろいろあるのです。ですから、命とは「自分が使える時間」なのです。

ごはんを食べる、勉強する、遊ぶ、どれもみんなにとって命の時間です。でも、どれも自分のための時間ですね。

しかし、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんはどうですか。ごはんを作ったり、掃除洗濯をしたり、お仕事をしたり、地域の役目を果たしたり、他の人のためにも時間を使っていますね。目の前にいる先生はどうですか。学校ではみんなのために、家に帰れば家族のために時間を使っています。

自分のための時間ばかりでなく、人の為の時間も使えるようになることが年齢を重ね、学年が上がって、だんだん大人になっていくということなのです。

1年生は小学校に上がる前とは違いますね。2年生も3年生も4年生も5年生も6年生も去年の自分と今の自分では違うはずですよ。

日野原先生は若い頃に戦争や飛行機ハイジャックなど命を奪われそうになったこわい体験をされ、そのときから、残された自分の命は人の為に使おうと心に誓ったのだそうです。

「命は自分が使える時間」「長生きすればするほど人の為に使える時間が増える」と考えて、105才まで何万人という患者さんを診察されました。必ず患者さんの体に手を添える慈愛に満ちた診察でした。

いよいよ明日から長い夏休みが始まりますが「自分のことばかりでいいのかな」「一日のうちの少しでも自分以外の人の為に使おう」と考えるよい機会だと思います。どうしていいかわからなかったら、お家の人に相談してみるといいですよ。

「命は時間」です。今年の夏休みもみんなの命の一部になります。

これからもずっとみんなの時間は続きます。命は続きます。

宇都宮大学教職大学院より研修生

本校は今年も宇都宮大学教職大学院生の研修の場となります。本校の教員の研修意欲や子供たちの学習意欲に着目し、大学院が学びたい学校として本校を選んで下さっていることを大変誇りに思います。週3回程度来校し教員と共に指導にあたりながら研修を進めていかれます。

小林祐輝先生(現役大学院生)6年1組付き
永鳥政宏先生(現職大学院生)4年1組付き

